

# The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室  
発行人：出版室長 寺本 亮洞  
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2  
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)  
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和2(2020)年8月1日 土曜日  
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



## 戦歿者に世界平和を誓う

広島市の平和記念公園にある原爆供養塔前で7月14日、一隅を照らす運動「第16回戦歿者慰霊・世界平和の祈り『天台宗平和祈念法要』」が営まれた。今年には戦後75年の節目から、比叡山延暦寺根本中堂の「不滅の法灯」から分けられた灯が供えられ、戦歿者らに世界の恒久平和を誓った。

# 戦後75年迎え 「不滅の法灯」 捧げて慰霊

開宗一千二百年慶讃大法会を機に岡山、山陰、四国の三教区による三県特別布教として平成17年に始められた法要。戦歿者や原爆犠牲者の慰霊とともに、戦争体験を風化させず、平和の大切さや尊さを後世に伝えるため続けている。

例年は三教区の住職有志らの出仕で営んできたが、今年には新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため規模を縮小して実施した。法要は、岡山教区の永宗幸信宗務所長を導師に、村上行英同

## 法灯が沖縄と長崎にも

中国・四国・九州にある各教区の中で趣旨に賛同した有志らが、今年が戦後75年を迎えたことから、太平洋戦争の激戦地となった沖縄県、被爆地の広島、長崎の両県で「終戦七十五年・比叡山不滅の法灯平和行脚」を企画。比叡山延暦寺根本中堂の「不滅の法灯」から分灯された灯を宝前に供え、全戦歿者を慰霊し、多くの人がともに世界平和を願う祈りを捧げようとしていた。しかし新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し、有志のみの少人数で慰霊法要を営むことに、やむなく変更した。

沖縄県では、延暦寺の僧侶や宗内の住職、檀信徒ら有志が平成14年から「沖縄戦争殉難者慰霊行脚」を毎年続け、県内各所で慰霊法要を営んでいる関係から実施された。4月に高倉種因寺住職ら数名が「不滅の法灯」を掲げて海を渡り、糸満市の平和祈念公園や首里城などを行脚した。

続いて5月14日には、長崎県佐世保市の祇園寺(山下隆源住職)で嘉瀬慶文九州西教区宗務所長の導師で法要を営み、広島での法要に報恩を繋げた。

「令和2年7月豪雨」災害により亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

天台宗  
一隅を照らす運動総本部

## 極微

新型コロナウイルス 新型問題で、世界は混乱を極めている。あらゆる社会分野での価値観が問われている。生存がかった問題だけに、個人と社会全体の価値観の衝突が特に目立った。マスクなどの買い占め騒動、ウイルス検査場を自分の住む近くに作らせないなど、利己的な行動が出ている。だが、利他的な行動が消えたわけではなかった。特に医療従事者の方々の献身的な仕事ぶりには、頭が下がった。中国・武漢や欧米をはじめとする感染国の医療従事者の死者も数多く出ている。仕事を放り出せない立場であり、強い使命感によるものであろう。この感染症は今後どういう状況をもたらすかわからない。専門家の意見では、ピークは抜けてもその後もなくなることはないという。今回わかったことは、感染速度の速さと予測のできない症状の変化である。感染拡大の状況は、負のグローバル化とも言うべき様相で、みるみるうちに全世界に及んだ。この感染症のワクチンも作られ、対症療法もなんとか確立されることと思うが、そこに至るまで、日夜、医療従事者、専門分野の研究者の奮闘は続くだろう。我々ができることは、利己的な行動に走ることなく、この新型コロナウイルスの収束に向け努力する人々たちを阻害せぬことだ。そしてその人々を差別するのではなく感謝の意をもって接すべきだろう。